

発議第 6 号

令和 7 年 6 月 25 日

木津川市議会議長 柴田 はすみ 様

提出者 木津川市議会議員 宮嶋 良造
賛成者 木津川市議会議員 西山 幸千子

沖縄戦の歴史に真摯に向き合う決議について

上記の決議を、木津川市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により、別紙のとおり提出します。

沖縄戦の歴史に真摯に向き合う決議（案）

令和7年5月3日の憲法記念日に那覇市で開催されたシンポジウムにおいて、西田昌司参議院議員は、沖縄県のひめゆりの塔の展示をめぐり、展示の説明が「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり（学徒）隊が死に、米国が入ってきて、沖縄が解放されたという文脈で書いている」として「歴史の書き換え」などと発言された。

この発言については、沖縄県議会が抗議の決議を行うなど、多くの抗議の声が上がり、また、石破茂総理も歴史が書き換えられたなどという発言については「認識を異にする」と衆議院予算委員会で答弁しており、沖縄県の玉城デニー知事と面会した際、「ひめゆりの塔」の説明を巡る西田議員の発言に「大変申し訳ない発言で、自民党総裁として深くおわびする」と陳謝している。西田議員の発言や見解は、沖縄県民の心を深く傷つけるものといわざるを得ない。

これまでから日本国政府は、談話や国会答弁などで、先の大戦において、沖縄は国内最大の地上戦を経験し、多くの方が犠牲となり、筆舌に尽くし難い苦難を経験されたこと、何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実があることなどを、公式な立場として表明してきた。

また、沖縄戦においては多くの京都府出身者も犠牲となり、戦後、京都府内の多くの議員の先人たちが党派を超えて沖縄と京都とを結ぶ文化と友好との絆を深めてきた。

木津川市議会は、京都選出の国会議員が上記のような発言をしたことに強い遺憾の意を表明するとともに、沖縄「慰霊の日」を迎える6月は特に沖縄県民の心情に寄り添い、沖縄戦の歴史に真摯に向き合うことを決議する。

令和7年6月25日

木津川市議会